

久留米大学を受診した患者さんへ

「肺小細胞癌及び膵腫瘍における INSM1 発現」の研究に使用する試料について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料を使用します。

- 1) 期間：平成 6 年 1 月から平成 28 年 6 月
- 2) 受診科：消化器病センター及び呼吸器病センター
- 3) 対象疾患名：膵腫瘍及び肺小細胞癌
- 4) 使用する試料：細胞診検体、組織診検体、診療情報等

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：病理診断科・病理部
 研究代表者：講師 内藤嘉紀
 研究分担者：准教授 秋葉純
 副技師長 河原明彦

2) 研究の意義と目的：INSM1 とは Zinc-Finger 型転写因子と言われるもので、肺小細胞癌における重要な因子として近年報告されています。この INSM1 は、肺小細胞癌における重要な因子と言われている synaptophysin や chromogranin A を調整する役割を担っていますが、膵内分泌腫瘍でも重要な因子として知られています。今回の検討の意義は、肺小細胞癌や膵腫瘍における INSM1 の発現を確認し、未だ診断するのに苦慮されている肺小細胞癌や膵内分泌腫瘍に対する病理診断・細胞診断の正診率の向上を目的としています。

3) 研究の方法：今回の研究で用いる検体は、久留米大学病院で検査及び外科手術を行った肺小細胞癌及び肺小細胞癌から得られた組織及び細胞診検体を用います。

4) 研究期間：平成 28 年 7 月倫理委員会承認後～平成 32 年 7 月

5) 上記の試料の使用を選定した理由：今回の研究では、肺小細胞癌及び膵腫瘍における INSM1 の発現評価を行う為に、膵癌・肺小細胞癌の組織・細胞診検体を用います。組織・細胞診検体を用いる理由としては、外科切除で得られる免疫染色結果と生検診断・細胞診診断の結果の整合性を確認する事で、正診率への影響を検討する為です。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：本研究は、正常細胞のゲノム解析は行わないため、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」の対象ではありませんが、その趣旨に踏まえた対応を行い、検体の提供者及びその家族への不利益を最小限にとどめるように配慮します。すべての検体は連結可能匿名化して用い、原則として研究者は匿名化情報のみを使用するものとします。個人情報の保護については十分な配慮を行います。すべての検体は病理番号を用い、被験者は病理番号及びイニシャルを使用するものとし、被験者に対する守秘に責任を持つ管理者の指示に従います。研究発表時には被験者が特定できないような配慮を致します。本研究は、ヒトを対象とした研究であるため、ヘルシンキ宣言を基に作成されました。また、研究計画は本人と確定できないように暗号化にて処理いたします。

7) 研究成果の発表の方法：学会及び論文発表

8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

内藤 嘉紀（久留米大学病院 病理診断科・病理部 講師）

久留米市旭町 67

Tel: 0942-31-7651 (fax: 0942-31-7651)